

## 我が友デルス①

## その人の名は、一目で

## 白道のカミミーノ便り

妻のベアトリーチェが尋ねた。「アキラ・クロサワのデルス・ウザールという映画は面白かった。見たことがある？」

黒沢明の映画は欧州ではしばしば上映され、「クロサワ」と言えばフェリーニなどと並ぶ世界的な監督として知られている。ちなみに欧州の芸大の学生たちの間では日本のアーティストとして、ファツシオンデザイナーのイツセイ・ミヤケや建築家のタダオ・アンドウが多く話題に出る。

黒沢映画の中では「七人の侍」など、いつもベストテンに挙がる作品とは違って「デルス・ウザール」はあまり知られていないよう



くつろぐ我が友デルス＝美郷町上野

だが、ロシアで製作した唯一の映画と聞いた。妻によると、デルスは辺境の森に住む少数民族で、固有の言葉となまりのあるロシア語をしゃべるが、映画全体はロシア語だという。妻の国・リトアニア

で、今ではすっかり英語教育が一般的になっているが、20年ほど前まではロシア語が必修だった。おかげで彼女は、母国語と同じくらいロシア語が分かる。日本人監督がロシアで作った映画を、リトアニアで見た妻が日本で私に説明する、というやらしい構図である。

今回は映画の話ではない。月に数回は、私たちの陶房を訪れるデルスについて書く。「デルス・ウザール」を見た人なら我が友を一目見た途端、何故その人をデルスと私たち夫婦が呼ぶのか合点するだろう。嵐のような蓬髪とロシアの將軍のひげ。その神々しい風貌の前では古今東西の仙人たちですらひざまずくに違いない。(つづく)